

生駒市学校教育のあり方検討委員会
学校規模適正化部会
平成30年度第1回会議 会議録

開催日時 平成30年6月25日（月） 午後2時から

開催場所 生駒市役所 4階 401・402会議室

出席者

（委員） 前田部会長、藤尾委員、岡島委員、高島委員、山中委員、大谷委員

（事務局） 真銅教育振興部長、吉川教育振興部次長、辻中教育総務課長、城野教育指導課長、山本教育総務課課長補佐、滝澤教育指導課課長補佐、牧井教育総務課主任

（傍聴者） 1名

1 部会長の選任

互選により、部会長に前田委員を選任

2 案 件

(1) 会議の進め方について

（事務局） 【資料7 学校規模適正化部会開催スケジュール（案）の説明】

（前田委員長） 質疑等はあるか。

質疑等がないようなので、会議の進め方については、小中一貫教育の検証後に学校規模適正化について審議していくこととする。

(2) 市の小中一貫教育の経緯について

（事務局） 【資料1 高山スーパースクールゾーン構想、資料2 生駒北小中一貫教育のイメージの説明】

（藤尾委員） 茶室については、どれぐらいの広さがあるのか。

- (事務局) 施設整備については、地域住民も参加した準備会議を開催し、意見を伺った際に、茶釜の里ということから、そのような施設を設けてもらいたいとの要望があったことから、設置させていただいたものである。
- (藤尾委員) 学校教育として、茶釜と学ぶ機会を設けているのか。
- (事務局) そのとおりである。
- (藤尾委員) 指導者はどうなっているのか。
- (事務局) 地域の茶道協会の方に来ていただいている。
- (藤尾委員) 茶釜作りの体験はしているのか。
- (事務局) 茶器や茶釜づくりの体験もしている。
- (藤尾委員) 学校と地域との連携とあるが、地域の範囲については、校区の老人クラブや子ども会を想定しているのか。
- (事務局) 学校周辺の方々を含む校区の住民全体を想定している。
- (藤尾委員) 地域との交流については、頻繁に行われていたのか。
- (事務局) 生駒北小中学校においては、元々交流が盛んな地域ではあったが、設備面でも整備し、さらに交流しやすいものにできたと思う。
- (藤尾委員) 小中一貫教育をすることにより、さらに交流が進むということでもいいことだと思う。
- (大谷委員) 新校舎の建設が計画から1年遅れたとの説明であったが、小中一貫教育は何年度から行われたのか。
- (事務局) 旧小学校校舎に中学校が移るという形で、平成28年度から小中一貫教育を実施させていただいている。
その間に、旧中学校校舎の跡地に新校舎を建設し、平成29年度から新校舎での小中一貫教育を開始した。
- (大谷委員) なぜ校舎の建設が遅れたのか。
- (事務局) 小中一貫教育について、地域の方々とじっくりと話を行うため懇話会を開催し、進めていった。
- (藤尾委員) 第2グラウンドとあるが、これは整備されたのか。
- (事務局) 過去の計画では、旧生駒北小学校の跡地に校舎を建設する予定であったことから、横にある高山幼稚園の跡地に第二グラウンドを整備するのがいいのではということであったが、

結果として、旧中学校の跡地に新校舎を建設したことから、利便性の面から高山幼稚園跡地に第二グラウンドを整備する必要性が乏しく、現在は白紙の状態となっている。

(藤尾委員) グラウンドについては、中学校はクラブ活動などがある。小学校との使い分けをどうなっているのか。

(事務局) 中学校のグラウンドの方が小学校と比べて大きく、時間割の工夫などで対応している。また、低学年用のスペースも設けさせていただいている。

(高島委員) 中学校については、放課後活動として実施されている。校時や休み時間との調整は必要かと思う。

(事務局) 生徒数が少なく、クラブ活動も限られてくる。

(前田部会長) 施設一体型の小中一貫教育については、施設の調整が難しいとよく聞くが、事務局の説明どおり、上手く活用されているように見受けられる。

(藤尾委員) 地域の拠点にもなっていることから、施設利用の調整が大変ではないかと思う。

(大谷委員) シチズンシップ教育というのは地域活動ということか。

(高島委員) 市民教育ということである。地域も含まれるものである。

(前田部会長) 小中一貫9年間を通して、6・3制ということか。

(事務局) 次の案件でご説明させていただきたいと考えている。

(前田部会長) では、次の案件に移らせていただく。

(3) 生駒北小中学校における成果と課題について

(事務局) 【資料3 生駒北小中学校平成30年度学校要覧、資料4 生駒北小中学校教育課程表、資料5 生駒北小中学校における成果及び課題(生駒北小学校)、資料6 生駒北小中学校における成果及び課題(生駒北中学校)についての説明】

(藤尾委員) 始業時と終業時にチャイムが鳴るのか。

(事務局) そうである。

(藤尾委員) 小学校と中学校と授業時間が違うのにチャイムはどうなっているのか。

(事務局) チャイムは中学校に合わせる形で、小学校は担任が45分

を計って終わる形を採っている。

(藤尾委員) いじめ対策委員会については、小中同じ組織なのか。それとも、小学校と中学校分けているのか。

(事務局) 組織として一体だが、構成メンバーとして小学校と中学校の教職員が入っている。

(高島委員) 乗り入れ授業をしているとは思いますが、具体的な成果として、色々具体的にあるとは思いますが、全国学力・学習状況調査の結果などの数値として比較はされているのか。

また、自尊感情を図る設問が同調査にあったかと思うが、比較はされているのか。

(事務局) 比較はしていないが、資料6に記載されているとおり、すぐに効果が表れるものではなく、まだ2年目であることから、3年間でようやく比較できるものであると考えている。

今、意見を頂いた内容については、学校に問い合わせ、次回会議に資料として出させていただければと思う。

(高島委員) 先ほど中1ギャップについての説明があったが、不登校の児童生徒数がどうなっているのかなども分かれば、出していきたい。

(前田部会長) 事務局においては、次回に資料の提供をお願いしたい。

(大谷委員) 今回配布された資料については、指導者側からのものが多く、指導を受ける児童生徒の観点からの意見等をまとめたいただきたいと思った。

行事の充実をメリットとして挙げられている一方で、課題において、運動会などの行事の練習時間の削減が挙げられていた。これはどういうことか。

(事務局) 運動会等の練習については、やはり多くの時間を割くことになることから、やはり授業時間に合わせる形にしようとする、他の教科へのしわ寄せについて、再認識されたという解釈ではないかと思う。

(大谷委員) これも指導者側からの課題ということか。

(事務局) そのとおりである。

(藤尾委員) 乗り入れ授業が小中一貫教育の目玉であると思うが、どうな

っているのか。

(事務局) 音楽については、小中学校に1名配置されており、小学校の在籍となっているが、中学校の音楽も指導している。

(藤尾委員) その先生は中学校の資格も持っているのか。

(事務局) 今回の場合は、中学校の資格も持っている。

他の教科についても、中学校の先生が小学校の教科を指導している。

(藤尾委員) 先生に負担がかかると思うが、なぜ音楽の先生の増員を行わないのか。

(事務局) 小中一貫校となったからと言って、先生の数が減っているわけではない。先生の数は基準で決まっている。小学校はクラス担任制となり、中学校は教科担任制となる。中学校の先生が小学校を教えることにより、長い目で児童生徒を見ることができ、より効果的な指導につながり、より柔軟な対応ができるのではないかと考えている。

(山中委員) 小学校と中学校ともに働き方が問題となっている中で、小中一貫にすることで、さらに負担が増すのではないかという点が危惧される。特に中学校の先生の負担が大きいのではないか。

(事務局) もちろんその部分はあると思うが、学校で工夫して対応いただいているところではある。

(前田部会長) 会議はかなり増えると思うが、学校としてはどのように考えているのか。

(事務局) 職員会議については、決められた曜日に行っている。むしろ、研修が課題となるのではないかと考えている。

特に中学校は教科担任制になることから、参観等を行うことがなく、時間がない中で授業を見学したり、情報交換を行っているもらっているのが実情である。

また、小中一貫教育によって、校長が1名となっており、その代わりに数学の教員を1名配置している。

(前田部会長) 生駒北小学校から私立中学校に進学する割合はどうか。

(事務局) 生駒北小学校から私立への進学率は少ないと聞いている。

- (高島委員) 転入はあるのか。
- (事務局) あまりない。この校区は、京田辺市の隣接区域で、京田辺市の児童が中学校から入学することになっていることから、京田辺市の保護者から問い合わせが来ることがある。
- (大谷委員) 登下校で集団登下校はしているのか。
- (事務局) 北小学校では集団登校はしていない。
- (大谷委員) バス通学については、どうなっているのか。
- (事務局) バス停は従来どおり運動場の前で、ほとんど変わっていない。
- (前田部会長) やはり小中一貫教育について、外国語の研究においてだが、小学校の児童が中学校の生徒を憧れとしてみるといった長期的な動機付けに役に立つということも言われている。
- 異学年交流がしづらいとのことだが、交流をもっと増やすことができれば、よりいいのではないかと思う。
- 時間割が複雑とのことだが、解消に向けた取組などはされているのか。
- (事務局) 現状では、特に何か取組をすすめているとは聞いていない。
- (藤尾委員) 運動会はどうなっているのか。
- (事務局) 一緒に行われている。
- (山中委員) 一緒にするによって、時間が長くなったり、内容が薄くなったりといったことはないのか。
- (事務局) 特には聞いていない。
- (前田部会長) 生徒指導面でいい影響が出ているとの報告を受けているが、逆にマイナス面では何かないか。
- (事務局) 年齢の開きという面からの難しさは聞いているが、マイナス面については、特に聞いていない。
- (藤尾委員) 中学校では進学のことに関わってくるが、何かデメリットはないか。
- (事務局) 小学校では単元ごとのテストだが、中学校は定期テストなる。小学校では、中学校の定期テスト期間に合わせて、トライ・ウィークとして家庭学習の手引きを作成し、活用されている。

(高島委員) 中学校にとっては大きな影響はないが、小学校にとっては、大きな影響があるのではないかと思う。

(岡島委員) 懇話会の開催にあたって、生駒市の PTA が参加することはなかったのか。現在、生駒北小中学校の PTA だけが少し特別になっている。保護者関連で支障が出てきたので、質問させていただいた。

(事務局) 地域の懇話会ということで市の PTA については想定していなかった。

(大谷委員) 小中一貫教育になったことによる想定外のメリット、デメリットはあったか。

(事務局) 初年度に中学校の中間試験で、小中学校の授業時間が違うことが課題となった時期もあったが、工夫されて現在は解消されている。

小中一貫教育については、先進事例も多く、参考したことから、特に大きなメリット、デメリットはなかった。

(大谷委員) 生駒北小中学校区については交通の便も良くなってきている。今後、児童生徒数が増加した場合も小中一貫教育を続けていくのか。

(事務局) 児童生徒数の減少が小中一貫教育を進めていく理由ではなく、小中一貫教育については進めていくことに変わりがない。

一定の増加を見込んだ校舎とはなっているが、児童生徒数が大きく増加した場合は、校舎の増築なども検討しなければならないと思う。

この学校は小中学校が比較的近接しており、校区も全く同じで、条件は整っていたということはあるかもしれない。

(前田部会長) それでは、次回以降も引き続き審議を行っていくこととする。

(4) 今後のスケジュールについて

(事務局) 【資料7 学校規模適正化部会開催スケジュール(案)の説明】

< 質疑なし >

(5) その他

< 特になし >

以 上